

信濃川水系河川整備計画案（案）に対する各部会で頂いたご意見

平成25年8月
国土交通省北陸地方整備局

部会	(案)頁	意見の内容	現行案	修正案
	-8-	<p>○意見1</p> <p>自然環境に係わる説明の中で、上流部だけ外来種が増加しているような表現で問題はないのか。</p>	<p>第2章 流域及び河川の概要 第2節 河川の概要 第6項 自然環境</p> <p>上流部は、標高差等に起因する気象条件により、生育する植物相は多様で、それらを生息環境とする動物相も多岐にわたります。犀川の上流は上高地を擁し、清冽な流れと穂高連峰の岩峰により優れた景観が形成されています。河川敷には、砂礫河原、ヨシ原等がみられ、多くの鳥類が生息し、瀬・淵やワンド・水路等の水域には多様な魚類が生息しています。水際には希少種を含む植物相が形成されていますが、近年は外来種が増加しています。</p> <p>中流部は、広大な流域に豪雪地帯を抱えることから水量が豊かで、山間部から平野部へと大きく地形が移り変わる中で多様な自然環境が形成されています。河川敷の植物群落は、陸上動物の生息・繁殖環境として利用され、鳥類のコロニーも存在します。水量が豊富な水域は、瀬と淵の連続した清流がみられ、淡水魚の宝庫となっています。</p> <p>下流部は、広大な平野部、海浜部の砂丘地、樹林に覆われた丘陵・山地と起伏に富んだ地形の中に多様な自然環境が形成され、平野部を囲む樹林は、ほとんどがスギ等の人工林です。河川敷には河畔林が川に沿って帯状に分布し、水域には緩やかに蛇行した流れにワンド等が形成され、河口付近は潮の影響を受ける区間があるなど、魚類の多様な繁殖・生息場が形成されています。</p>	<p>第2章 流域及び河川の概要 第2節 河川の概要 第6項 自然環境</p> <p>上流部は、標高差等に起因する気象条件により、生育する植物相は多様で、それらを生息環境とする動物相も多岐にわたります。犀川の上流は上高地を擁し、清冽な流れと穂高連峰の岩峰により優れた景観が形成されています。河川敷には、砂礫河原、ヨシ原等がみられ、多くの鳥類が生息し、瀬・淵やワンド・水路等の水域には多様な魚類が生息しています。水際には希少種を含む植物相が形成されています。</p> <p>中流部は、広大な流域に豪雪地帯を抱えることから水量が豊かで、山間部から平野部へと大きく地形が移り変わる中で多様な自然環境が形成されています。河川敷の植物群落は、陸上動物の生息・繁殖環境として利用され、鳥類のコロニーも存在します。水量が豊富な水域は、瀬と淵の連続した清流がみられ、淡水魚の宝庫となっています。</p> <p>下流部は、広大な平野部、海浜部の砂丘地、樹林に覆われた丘陵・山地と起伏に富んだ地形の中に多様な自然環境が形成され、平野部を囲む樹林は、ほとんどがスギ等の人工林です。河川敷には河畔林が川に沿って帯状に分布し、水域には緩やかに蛇行した流れにワンド等が形成され、河口付近は潮の影響を受ける区間があるなど、魚類の多様な繁殖・生息場が形成されています。</p> <p>※外来種については「第3章 河川の現状と課題」で記載しています。</p>
【上流部会】	-41-	<p>○意見2</p> <p>語句の統一を図った方がよい。</p>	<p>第3章 河川の現状と課題 第4節 河川環境の現状と課題 第1項 河川環境</p> <p>2. 河川環境上の課題 (2) 上流部</p> <p>上流部においては、砂州の樹林化の進行により、砂礫地に集団で営巣するコアジサシは営巣地、営巣数が減少しています。また、高水敷への冠水頻度の減少に伴い、アレチウリ等特定外来生物の侵入・分布が急激に拡大し、在来種の生息環境が悪化しています。</p> <p>かつての千曲川中流域の河川空間は、瀬・淵のある多様な流れの中に砂礫河原が広がり、生物の良好な生息空間となっていました。河道内の砂利採取等の影響により河床低下が生じ、低水路と高水敷の比高差が大きくなったため、高水敷の乾地化が進行しました。これに伴い、河原特有の環境に生育する植物は減少しました。</p> <p>また、千曲川、犀川では湧水箇所が多く、特に千曲川と犀川の合流部には多くの湧水ワンドがみられましたが、近年は減少しています。湧水は年間を通じて水温の変動が小さく、魚類の越冬場所、避難場所、小型魚の隠れ場としての機能を果たしており、河原固有の植物や、湧水に依存する魚類等の貴重な生息・生息環境となっていることから、湧水環境を保全する必要があります。</p> <p>一方、外来種の侵入の勢いは著しく、植物では乾燥化した高水敷のいたるところにアレチウリやハリエンジュが繁茂しています。かつてはその分布範囲が限られていたましたが、近年には繁茂範囲が全域に広がっており、今後さらに拡大していくことが懸念されています。また、魚類ではブルーギル、オオクチバス、コクチバスの特定外来生物が確認されており、今後の拡大が懸念されています。</p>	<p>第3章 河川の現状と課題 第4節 河川環境の現状と課題 第1項 河川環境</p> <p>2. 河川環境上の課題 (2) 上流部</p> <p>上流部においては、砂州の樹林化の進行により、砂礫地に集団で営巣するコアジサシは営巣地、営巣数が減少しています。また、高水敷への冠水頻度の減少に伴い、アレチウリ等特定外来生物の侵入・分布が急激に拡大し、在来種の生息・生育・繁殖環境が悪化しています。</p> <p>かつての千曲川中流域の河川空間は、瀬・淵のある多様な流れの中に砂礫河原が広がり、生物の良好な生息空間となっていました。河道内の砂利採取等の影響により河床低下が生じ、低水路と高水敷の比高差が大きくなったため、高水敷の乾地化が進行しました。これに伴い、河原特有の環境に生育する植物は減少しました。</p> <p>また、千曲川、犀川では湧水箇所が多く、特に千曲川と犀川の合流部には多くの湧水ワンドがみられましたが、近年は減少しています。湧水は年間を通じて水温の変動が小さく、魚類の越冬場所、避難場所、小型魚の隠れ場としての機能を果たしており、河原固有の植物や、湧水に依存する魚類等の貴重な生息・生育・繁殖環境となっていることから、湧水環境を保全する必要があります。</p> <p>一方、外来種の侵入の勢いは著しく、植物では乾燥化した高水敷のいたるところにアレチウリやハリエンジュが繁茂しています。かつてはその分布範囲が限られていたましたが、近年には繁茂範囲が全域に広がっており、今後さらに拡大していくことが懸念されています。また、魚類ではブルーギル、オオクチバス、コクチバスの特定外来生物が確認されており、今後の拡大が懸念されています。</p> <p>※本文中の他の「生息・生育・繁殖」の表現についても適切な表現になるよう見直します。</p>

部会	(案)頁	意見の内容	現行案	修正案
	-8-	<p>○意見1</p> <p>一文のなかで鳥類と魚類とで表現が異なっている。「多様な魚類が…」では種のことだと分かるが、「多くの鳥類が…」では種類数なのか個体数なのか分からない。</p> <p>○意見2</p> <p>「水域には水量が豊富で瀬と淵の連続した清流がみられ、…」という文には違和感がある。</p>	<p>第2章 流域及び河川の概要</p> <p>第2節 河川の概要</p> <p>第6項 自然環境</p> <p>上流部は、標高差等に起因する気象条件により、生育する植物相は多様で、それらを生息環境とする動物相も多岐にわたります。犀川の上流は上高地を擁し、清冽な流れと穂高連峰の岩峰により優れた景観が形成されています。河川敷には、砂礫河原、ヨシ原等がみられ、多くの鳥類が生息し、瀬・淵やワンド・水路等の水域には多様な魚類が生息しています。水際には希少種を含む植物相が形成されていますが、近年は外来種が増加しています。</p> <p>中流部は、広大な流域に豪雪地帯を抱えることから水量が豊かで、山間部から平野部へと大きく地形が移り変わる中で多様な自然環境が形成されています。河川敷の植物群落は、陸上動物の生息・繁殖環境として利用され、鳥類のコロニーも存在します。水量が豊富な水域は、瀬と淵の連続した清流がみられ、淡水魚の宝庫となっています。</p> <p>下流部は、広大な平野部、海浜部の砂丘地、樹林に覆われた丘陵・山地と起伏に富んだ地形の中に多様な自然環境が形成され、平野部を囲む樹林は、ほとんどがスギ等の人工林です。河川敷には河畔林が川に沿って帯状に分布し、水域には緩やかに蛇行した流れにワンド等が形成され、河口付近は潮の影響を受ける区間があるなど、魚類の多様な繁殖・生息場が形成されています。</p>	<p>第2章 流域及び河川の概要</p> <p>第2節 河川の概要</p> <p>第6項 自然環境</p> <p>上流部は、標高差等に起因する気象条件により、生育する植物相は多様で、それらを生息環境とする動物相も多岐にわたります。犀川の上流は上高地を擁し、清冽な流れと穂高連峰の岩峰により優れた景観が形成されています。河川敷には、砂礫河原、ヨシ原等がみられ、そこには多様な鳥類が生息し、瀬・淵やワンド・水路等の水域には多様な魚類が生息しています。水際には希少種を含む植物相が形成されていますが、近年は外来種が増加しています。</p> <p>中流部は、広大な流域に豪雪地帯を抱えることから水量が豊かで、山間部から平野部へと大きく地形が移り変わる中で多様な自然環境が形成されています。河川敷の植物群落は、陸上動物の生息・繁殖環境として利用され、鳥類のコロニーも存在します。水域は水量が豊富な清流で、瀬と淵の連続した地形がみられ、淡水魚の宝庫となっています。</p> <p>下流部は、広大な平野部、海浜部の砂丘地、樹林に覆われた丘陵・山地と起伏に富んだ地形の中に多様な自然環境が形成され、平野部を囲む樹林は、ほとんどがスギ等の人工林です。河川敷には河畔林が川に沿って帯状に分布し、水域には緩やかに蛇行した流れにワンド等が形成され、河口付近は潮の影響を受ける区間があるなど、魚類の多様な繁殖・生息場が形成されています。</p>
【中流部会】	-40-	<p>○意見3</p> <p>中流部の代表鳥類としてオオヨシキリ、ホオジロ、カシラダカが挙げられているが、カシラダカは信濃川を渡りの中継地として利用しているものであり、「動植物の生息・生育・繁殖状況」に記載するのは適切でない。中流域を代表する繁殖鳥類として、オオヨシキリ、ホオアカ、アオジ、ヨシキリを挙げてもらいたい。</p> <p>余裕があれば、「秋の渡りの時期にはカシラダカなど多数の鳥類が休息地として信濃川を利用しています。」という説明を追記できないか。</p> <p>○意見4</p> <p>「アユ、サケ、ヤマメ、カジカをはじめとした魚類…」は「アユ、サケ、ヤマメ、カジカなど多様な魚類…」とした方が適当である。</p>	<p>第3章 河川の現状と課題</p> <p>第4節 河川環境の現状と課題</p> <p>第1項 河川環境</p> <p>2. 動植物の生息・生育・繁殖状況</p> <p>(2) 中流部</p> <p>中流部では、河川敷にはオニグルミ、ヤナギ、ヨシの群落が分布しており、陸上動物の生息・繁殖環境として利用され、サギ類のコロニーも存在し、水際にはタコノアシ、ミクリ等もみられます。動物相は多種多様で、オオヨシキリ、ホオジロ、カシラダカなど新潟県内の河川でみられる鳥類のほとんどの種が確認され、昆虫類ではミヤマシジミ、マルコブスジコガネ等もみられます。水域にはコイ、ウグイ、アユ、サケなど様々な魚類が確認されています。</p> <p>魚野川では、水際にミクリやバイカモ等が分布しており、ヒメシジミ本州・九州亜種やアカガネオサムシ等の昆虫類もみられます。また、水域には水量が豊富で瀬・淵が連続した清流がみられ、アユ、サケ、ヤマメ、カジカをはじめとした魚類の宝庫となっています。</p> <div data-bbox="853 1126 1124 1334" data-label="Image"> </div>	<p>第3章 河川の現状と課題</p> <p>第4節 河川環境の現状と課題</p> <p>第1項 河川環境</p> <p>2. 動植物の生息・生育・繁殖状況</p> <p>(2) 中流部</p> <p>中流部では、河川敷にはオニグルミ、ヤナギ、ヨシの群落が分布しており、陸上動物の生息・繁殖環境として利用され、サギ類のコロニーも存在し、水際にはタコノアシ、ミクリ等もみられます。動物相は多種多様で、鳥類では新潟県内の河川でみられる鳥類のほとんどが確認される中、特にオオヨシキリ、ヨシキリ、ホオアカ、アオジなどの草食性鳥類は、中流部が代表的な繁殖地になっています。昆虫類ではミヤマシジミ、マルコブスジコガネ等もみられます。水域にはコイ、ウグイ、アユ、サケなど様々な魚類が確認されています。</p> <p>魚野川では、水際にミクリやバイカモ等が分布しており、ヒメシジミ本州・九州亜種やアカガネオサムシ等の昆虫類もみられます。また、水域は水量が豊富な清流で、瀬と淵の連続した地形がみられ、アユ、サケ、ヤマメ、カジカなど、多様な魚類の宝庫となっています。</p> <div data-bbox="1644 1126 1915 1334" data-label="Image"> </div>

部会	(案)頁	意見の内容	現行案	修正案																																																																																																																																											
【中流部会】	-42-	○意見5 上流部にのみ「魚類ではブルーギル・・・の特定外来生物が確認されており、今後の拡大が懸念・・・」とあるが、中・下流部では触れなくてよいのか。 外来魚に関して中流部ではどう対応するのか。	第3章 河川の現状と課題 第4節 河川環境の現状と課題 第1項 河川環境 3. 河川環境上の課題 (2)中流部 中流部においては、治水対策としての河道整正、みお筋の安定化、河床掘削に伴い、河岸部の環境が単調化、砂礫河原が減少し、高水敷の樹林化、乾燥化が進行しています。 大津分水路河口から蔵王橋までは、水際の湿地が減少傾向にあり、ヨシやオギ群落がヤナギ、オニグルミ群落に遷移しています。 蔵王橋から魚野川合流点までは、河岸や水域環境が単調化し、ヨシ原、砂礫地等が減少しています。また、高水敷の樹林化、乾燥化も進行しています。 また、魚野川合流点から宮中取水ダムまでは、ハリエンジュ等の外来植物も多くみられます。このことから、高水敷の樹林化等の抑制が求められています。	第3章 河川の現状と課題 第4節 河川環境の現状と課題 第1項 河川環境 3. 河川環境上の課題 (2)中流部 中流部においては、治水対策としての河道整正、みお筋の安定化、河床掘削に伴い、河岸部の環境が単調化、砂礫河原が減少し、高水敷の樹林化、乾燥化が進行しています。 大津分水路河口から蔵王橋までは、水際の湿地が減少傾向にあり、ヨシやオギ群落がヤナギ、オニグルミ群落に遷移しています。 蔵王橋から魚野川合流点までは、河岸や水域環境が単調化し、ヨシ原、砂礫地等が減少しています。また、高水敷の樹林化、乾燥化も進行しています。 魚野川合流点から宮中取水ダムまでは、ハリエンジュ等の外来植物も多くみられます。このことから、高水敷の樹林化等の抑制が求められています。 魚類ではコクチバスなど特定外来生物の生息も確認されており、注視していく必要があります。																																																																																																																																											
	-49-	○意見6 河川空間利用の散策の数が増加している理由は何か。H18が他年調査と比べてスポーツ・釣りが少なくなっている理由は何か。	第3章 河川の現状と課題 第4節 河川環境の現状と課題 第4項 人と河川とのふれあい 1. 河川空間の利用状況 (2)中流部 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">年間推計値(千人)</th> <th colspan="3">利用状況の割合</th> </tr> <tr> <th>H15</th> <th>H18</th> <th>H21</th> <th>平成15年度</th> <th>平成18年度</th> <th>平成21年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">利用形態別</td> <td>スポーツ</td> <td>236</td> <td>77</td> <td>235</td> <td rowspan="4"> </td> <td rowspan="4"> </td> <td rowspan="4"> </td> </tr> <tr> <td>釣り</td> <td>83</td> <td>31</td> <td>168</td> </tr> <tr> <td>水遊び</td> <td>92</td> <td>39</td> <td>103</td> </tr> <tr> <td>散策等</td> <td>718</td> <td>1,116</td> <td>1,800</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>1,129</td> <td>1,263</td> <td>2,306</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">利用場所別</td> <td>水面</td> <td>47</td> <td>21</td> <td>122</td> <td rowspan="5"> </td> <td rowspan="5"> </td> <td rowspan="5"> </td> </tr> <tr> <td>水際</td> <td>128</td> <td>50</td> <td>149</td> </tr> <tr> <td>高水敷</td> <td>735</td> <td>575</td> <td>982</td> </tr> <tr> <td>堤防</td> <td>219</td> <td>617</td> <td>1,053</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>1,129</td> <td>1,263</td> <td>2,306</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	項目	年間推計値(千人)			利用状況の割合			H15	H18	H21	平成15年度	平成18年度	平成21年度	利用形態別	スポーツ	236	77	235				釣り	83	31	168	水遊び	92	39	103	散策等	718	1,116	1,800	合計		1,129	1,263	2,306				利用場所別	水面	47	21	122				水際	128	50	149	高水敷	735	575	982	堤防	219	617	1,053	合計		1,129	1,263	2,306				第3章 河川の現状と課題 第4節 河川環境の現状と課題 第4項 人と河川とのふれあい 1. 河川空間の利用状況 (2)中流部 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">年間推計値(千人)</th> <th colspan="3">利用状況の割合</th> </tr> <tr> <th>H15</th> <th>H18</th> <th>H21</th> <th>平成15年度</th> <th>平成18年度</th> <th>平成21年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">利用形態別</td> <td>スポーツ</td> <td>236</td> <td>77</td> <td>235</td> <td rowspan="4"> </td> <td rowspan="4"> </td> <td rowspan="4"> </td> </tr> <tr> <td>釣り</td> <td>83</td> <td>31</td> <td>168</td> </tr> <tr> <td>水遊び</td> <td>92</td> <td>39</td> <td>103</td> </tr> <tr> <td>散策等</td> <td>718</td> <td>1,116</td> <td>1,800</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>1,129</td> <td>1,263</td> <td>2,306</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">利用場所別</td> <td>水面</td> <td>47</td> <td>21</td> <td>122</td> <td rowspan="5"> </td> <td rowspan="5"> </td> <td rowspan="5"> </td> </tr> <tr> <td>水際</td> <td>128</td> <td>50</td> <td>149</td> </tr> <tr> <td>高水敷</td> <td>735</td> <td>575</td> <td>982</td> </tr> <tr> <td>堤防</td> <td>219</td> <td>617</td> <td>1,053</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>1,129</td> <td>1,263</td> <td>2,306</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> P48の表11の下に以下の文章を追記 ※河川空間の年間利用者数(推計値)は、年間7日の調査結果から1年間の利用者数を推計しているため、調査日の天候等により影響を受ける場合があります。(上・中・下流部共通)	区分	項目	年間推計値(千人)			利用状況の割合			H15	H18	H21	平成15年度	平成18年度	平成21年度	利用形態別	スポーツ	236	77	235				釣り	83	31	168	水遊び	92	39	103	散策等	718	1,116	1,800	合計		1,129	1,263	2,306				利用場所別	水面	47	21	122				水際	128	50	149	高水敷	735	575	982	堤防	219	617	1,053	合計		1,129	1,263	2,306		
区分	項目	年間推計値(千人)				利用状況の割合																																																																																																																																									
		H15	H18	H21	平成15年度	平成18年度	平成21年度																																																																																																																																								
利用形態別	スポーツ	236	77	235																																																																																																																																											
	釣り	83	31	168																																																																																																																																											
	水遊び	92	39	103																																																																																																																																											
	散策等	718	1,116	1,800																																																																																																																																											
合計		1,129	1,263	2,306																																																																																																																																											
利用場所別	水面	47	21	122																																																																																																																																											
	水際	128	50	149																																																																																																																																											
	高水敷	735	575	982																																																																																																																																											
	堤防	219	617	1,053																																																																																																																																											
	合計		1,129	1,263				2,306																																																																																																																																							
区分	項目	年間推計値(千人)			利用状況の割合																																																																																																																																										
		H15	H18	H21	平成15年度	平成18年度	平成21年度																																																																																																																																								
利用形態別	スポーツ	236	77	235																																																																																																																																											
	釣り	83	31	168																																																																																																																																											
	水遊び	92	39	103																																																																																																																																											
	散策等	718	1,116	1,800																																																																																																																																											
合計		1,129	1,263	2,306																																																																																																																																											
利用場所別	水面	47	21	122																																																																																																																																											
	水際	128	50	149																																																																																																																																											
	高水敷	735	575	982																																																																																																																																											
	堤防	219	617	1,053																																																																																																																																											
	合計		1,129	1,263				2,306																																																																																																																																							

部会	(案)頁	意見の内容	現行案	修正案
【中流部会】	-86-	○意見7 「アユ、サケ等の回遊魚・・・」は「アユ、サケ等の通し回遊魚・・・」とした方が適当である。	第5章 河川の整備の実施に関する事項 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事施行により設置される河川管理施設の機能の概要 第3項 河川環境の整備と保全に関する事項 1. 河川環境の整備と保全 (3) 魚がのぼりやすい川づくりの推進 信濃川水系は「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業」の指定河川として、平成11年度から魚道整備や改良に取り組んでいます。これまでに大河津洗堰・可動堰、宮中取水ダム(JR東日本により実施)等の魚道改善を行っています。 アユ、サケ等の回遊魚のほか、小型の魚類、カニ等の生息・繁殖環境の整備や保全とともに、移動の障害となっている堰等の河川横断工作物や本支川合流部の段差等について、関係機関と調整を図り、魚道の設置や機能改善・維持等を推進します。また、魚道の維持や減水区間の流況改善等、河口から上流部までの水域の連続性を確保します。 今後は、大河津分水路の改修に伴い、遡上が困難な第二床固副堰堤、第二床固の魚道改善を行います。	第5章 河川の整備の実施に関する事項 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事施行により設置される河川管理施設の機能の概要 第3項 河川環境の整備と保全に関する事項 1. 河川環境の整備と保全 (3) 魚がのぼりやすい川づくりの推進 信濃川水系は「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業」の指定河川として、平成11年度から魚道整備や改良に取り組んでいます。これまでに大河津洗堰・可動堰、宮中取水ダム(JR東日本により実施)等の魚道改善を行っています。 アユ、サケ等の通し回遊魚のほか、小型の魚類、カニ等の生息・繁殖環境の整備や保全とともに、移動の障害となっている堰等の河川横断工作物や本支川合流部の段差等について、関係機関と調整を図り、魚道の設置や機能改善・維持等を推進します。また、魚道の維持や減水区間の流況改善等、河口から上流部までの水域の連続性を確保します。 今後は、大河津分水路の改修に伴い、遡上が困難な第二床固副堰堤、第二床固の魚道改善を行います。 ※本文中他の「回遊魚」についても「通し回遊魚」に修正します。
	-97-	○意見8 「環境学習・防災教育等への支援」で表記されている『子供たち』は、文部科学省では「子ども達」と表記されていたと思うので確認をお願いしたい。 また、「おもしろさや恐ろしさ」を併記することに違和感を感じる。時に人間生活を脅かす川の変化が怖ろしいという観点から「恐ろしさ」ではなく、畏怖をもって川を見つめる意味から「怖ろしさ」と表記するべきではないか。	第5章 河川の整備の実施に関する事項 第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所 第7項 人と河川とのかかわりの構築 2. 環境学習・防災教育等への支援 子供たちが川を身近に感じ、川のおもしろさや恐ろしさを学ぶ事が大変重要です。 このため、子供たち自身の自然に対する観察力を高めると同時に、河川環境、治水の歴史、川と人々の関わりなどが学べる場として水辺の楽校などを拡充するとともに、学校の教育活動やNPO等による取り組みに対して様々な支援を行います。 また、地域住民への「出前講座」の実施や自治体職員に対する研修の開催などにより、必要な知識や情報の提供を行い地域全体の防災力向上のための支援を行います。	第5章 河川の整備の実施に関する事項 第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所 第7項 人と河川とのかかわりの構築 2. 環境学習・防災教育等への支援 子ども達が川を身近に感じ、川のおもしろさや、時として人間生活を脅かす怖ろしさを学ぶことが大変重要です。 このため、子ども達自身の自然に対する観察力を高めることを促すと同時に、環境学習としては、河川環境、川と人々の関わりなどが学べる場として水辺の楽校などを拡充し、防災教育としては、治水の歴史や洪水対策に対する理解を深められるよう、学校教育やNPO等による取組に対して様々な支援を行います。 また、地域住民への「出前講座」の実施や自治体職員に対する研修の開催などにより、必要な知識や情報の提供を行い地域全体の防災力向上のための支援を行います。 ※本文中の他の「子供」についても「子ども」に修正します。

【下流部会】	修正意見なし
--------	--------